

＜「親子で登る自立の坂道」期：「子が親離れしていく」編－2＞

対象（時間）：小学4～6年生の親（110分程度）

## もしかしてイジメ！？ ～誰でもその可能性があります～

【ねらい】いじめにつながるストレス要因について意見交換し、家庭の役割について考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、椅子（人数分）

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可） ○男女混合が良いのか、男女別が良いのかは、あらかじめ決めておく。	※スケジュールを板書しておく。 ・机は講義形式
： (5分)	○ファシリテーター（学習支援者）自己紹介、主旨・ルール等説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	
： (20分)	<b>アイスブレイク（雰囲気づくり）</b> ①バースデーチェーン ・黙ったまま、身振り手振りで並び替え。 ②「否定・肯定」 ・前から二人組みになり、まず自己紹介。 ・一方が1分間話しかけ、他方は「否定的なイヤ～な態度」（腕組み、貧乏ゆすり、きよろきよろ、相手の目を見ない、後ろを向く、携帯電話をつつくなど）でまじめに聞かない。 ・交代して同じことをする。 ・次に、やはり1分間話しかけ、今度は「肯定的ない態度」（うなづく、相槌を打つ、相手の言葉を繰り返すなど）で一生懸命に聞く。 ・交代して同じことをする。 ※前から番号をかけ、グループ分け	○コミュニケーションに関わるゲームを通して、人間関係作りに大切なことを体験的に考える。 →「〇月〇日生まれの〇〇です」と、簡単に自己紹介  →30秒前、10秒前にアナウンスを入れる。  →同じ1分だが、どちらの時間が短く感じられたかを尋ねる。	・机を撤去  ・グループ数に応じて、机を配置
： (10分)	<b>＜ゆっくり読みましょう＞</b> ○新聞記事（P2）をゆっくり読みます。	○音読しながら適宜分かりやすく言い換え、「いじめの原因の一つはストレスであり、ゆえに誰もが無関係ではない」という考え方（研究成果）を理解してもらう。	
： (40分)	<b>＜考えましょう、出し合ひましょう＞</b> ○ゆっくりP3の記入（1問5分） ○グループで出し合う。（25分）	○いじめ（ストレスによる人間関係への悪影響）は「自分も無関係ではない」ということを考えてもらう。 ○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは発表しなくてもよい。（パス有り）	
： (15分)	<b>＜さらに考えましょう＞を読む。</b>	→これをもとに、グループまたは全体で意見交流を行う。 ○家庭というものの機能（ストレスを解消する癒しの場）を再確認してもらう。 ※時間があれば☆、県民の声も読む。（県民の声は必ずしも「模範解答」ではなく、いろいろな意見があるということを示すためのもの）	
： (15分)	<b>＜学習を振り返りましょう＞</b> ○ワークシートへの記入 ○ファシリテーターの話	○「いじめという問題を、『個人の資質』ではなく『ストレス量との関係』からとらえ直した研究結果である」という観点に立ち、「いじめと自分自身との関係について、当事者として考えるのが趣旨」であって、「個々のいじめの事象とその解決方法を模索する趣旨ではない」ことを、分かりやすく十分に説明する。	
： (5分)	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			